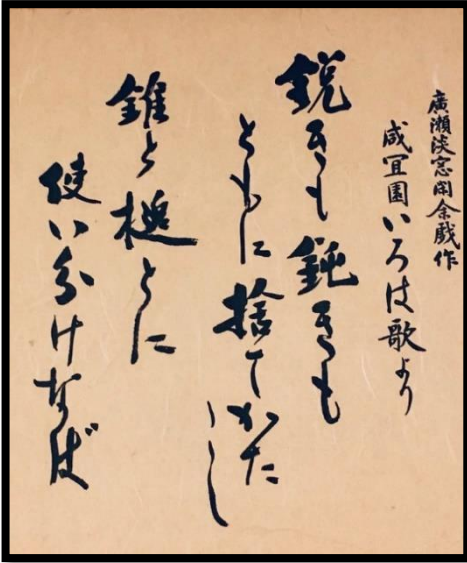


木葉小便り

令和4年10月25日(火)発行
文責 校長 吉野 新吾



菅本さん(原倉)のみかん畑での学習(3年)



「鋭きも鈍きもともに捨てがたし・・・」

左の歌は、私の育った大分県日田市の江戸時代の私塾「威宜園」に残るものです。小学校時代に日田の教育の根底を流れる教えを学んだことを思い出します。

尖ったものは錐(きり)として、丸いものは槌(つち)として使い分けなさいということです。尖ったものを槌に、丸いもの錐に使うと役には立ちません。つまり、「ものの特性を生かさない」ということです。



10月11日令和4年度の後期がスタートしました。後期もそれぞれの子供の「よさ」を生かした教育活動を進めていきます。

合い言葉は、「そこに愛はあるんか?」です。後期もどうぞよろしくお願ひします。

みんなは、小さな外交官!

9月27日(火)にウクライナからの友達を受け入れました。学校として、国際協力機構(JICA/ジャイカ)の方々に来ていただき、全校児童向けに多文化共生プログラムの学習を行いました。

言葉、文化、生活様式等の違いはあっても、世界の仲間であることを確認した上で、レナートくん(写真左)とティムールくん(写真右)とコトビッチ夫妻に体育館に入場してもらい、2名の友達を紹介するという形で進めていきました。

木葉小として、グローバル感覚を育むチャンスとして捉えます。



自己紹介後、児童からの質問に答える2人

よくなっているのでしょうか? ~「あいさつ」を最優先課題として取り組んでいます~

前号で「学校としてもう一度課題意識をもって取り組むことにしました。(中略)そして「あいさつがよくなったよ。」という声を聞きたいと思います。」と伝えました。

校内ではできているあいさつが、地域の中ではできていないということも見えてきました。上級生の姿がリーダーとして不十分であることも見えてきました。コロナ禍の影響で大きな声であいさつをすることにも影響があるのではという声もありました。そこで、学級通信で保護者へ伝え、代表委員会でも学校全体の問題として話し合い、右のことを実践事項として決めました。

- ・相手より先に
- ・大きな声ではっきり
- ・相手を見て頭を下げる



通学路に上写真の掲示板を発見しました。「子供は地域を映す鏡」とも言われます。地域と一体となった取組を学校として推進していきます。毎朝、あいさつ指導に通学路に立ってくれている地域の方や職員がいます。本当にありがたいことです。木葉小学校は、「玉東町の未来を創る子供たちの育成」に向けてがんばります。